



久しぶりの再会に笑顔の花

平成24年 成人式



平成24年成人式が、1月2日、砂美地来館において開催されました。

会場には、色艶やかな振袖や羽織袴、スーツに身を包んだ新成人が次々と集まり、旧友との久しぶりの再会に笑顔を見せました。

オープニングを飾ったのは、ゆがぶーBAND。温かい歌と力強い演奏で、晴れの目を迎えた新成人のみなさんにエールを送りました。

式典では、ヨロンの海サンゴ礁再生協議会の渡辺暢雄さんが新成人者への期待として講演。企業で培った経験や、美しい与論の海への想い、そして与論の海の再生を目指して行っている活動を通して、「いつかは与論に戻ってきてほしい。しかし、ただ戻るのではなく、与論島のために貢献ができるような力をつけて戻ってきて下さい。常に島の事を思いながら、自分を活か



し、人を活かして社会の中で活躍して下さい。」と新成人を激励しました。

続いて、新成人を代表して青山詩織さんが、「感謝の気持ちを決して忘れず、それぞれが与論、そして日本の将来を担う人材であるということを常に意識し、日々精進していきます。」と力強く誓いを述べました。

新成人の皆さん、おめでとうございます。これからのご活躍をお祈りいたします。

新成人者抱負

新成人代表 青山 詩織



新年明けまして、おめでとうございます。本日は、お忙しい中私たちの成人式にご臨席いただき、ありがとうございます。また、このような盛大な式典を催していただき、誠にありがとうございます。

私たちは、幼い頃からこの与論島で育ってきました。保育園、幼稚園、小学校から高校まで、ずっと一緒だった仲間も少なくありません。そのため、与論高校を卒業して皆離れ離れになる際には、不安がとても大きかったです。慣れ親しんだ仲間のいない生活を経験し、寂しい思いや悔しい思いをしたこともありましたが、そのような経験を通過して、社会の厳しさを少しずつ知り、今日この日を迎えました。

さて、現在私は、大学からの交換留学生として、アメリカの大学で勉強しています。日本を出ることで、日本の力の大きさを目の当たりにしました。見渡せば、そこらじゅうを走っている車の多くはトヨタやホンダ、ニッサンなどの日本車であり、屋内の電化製品を見てみれば、トウシバやサンヨウ、ソニーやヒタチの製品があららこちらにあります。また、日本のテレビアニメ、漫画やゲームなどに興味がある人もとても多く、日常生活のあらゆる場面で日本のものを見たり、話を聞いたりします。そのたびに日本の技術の高さや影響力に感激させられ、日本人であることに喜びを感じ、そのことを誇りに思います。

また、島を出て出身地の話になる度に、与論という小さな島の話題で盛り上がりまします。それまで、当たり前だと思っていたことがそうでなかったり、島では考えられないようなことが当たり前だったりし、この与論島で育ったということは、どこにでもあるわけではない、とても特別なことなのだと思付かされ、この島で育ったことを誇りに思うようになりました。昨年三月の東北地方太平洋沖地震では、多くの人々が被災し、連日連夜の報道で、日本全体が感情を共有し、国全体がひとつに

なったようにも感じました。また、大津波とその被害を目の当たりにして、自然に対して人間の力がいかに無力であるかを実感させられました。同時期に発生した原発の問題についても、今まさに、日本の動きに世界が注目している時であります。そして今必要なことは、私たち一人ひとりにできることを考え、日本人としてそれらを実行することではないでしょうか。

保護者の皆様の中には、私たちが島に帰省しても毎晩のように友達に会いに出かけるため、家族との時間を後回しにすることに不満を抱かれる方々も多いと思います。また、与論町の皆様の中には、車の運転免許を取得したばかりの私たちが、危なっかしい運転をし、迷惑をされている方々もいらっしゃると思います。まだまだ自分たちのことばかりで精一杯な私たちですが、島の皆様や、家族の暖かさに包まれ、多くの方々に支えられて成長してこれたということにとても感謝しています。その感謝の気持ちを決して忘れることなく、私たちそれぞれが与論、そして日本の将来を担う人材であるということを常に意識し、日々精進していくことを誓います。